

3. 計画の方向性について

【食をめぐる現状】

○第3次食育推進基本計画（国）

- ・食に関する国民の価値観やライフスタイル等の多様化が進んでいる
- ・国民の意識の変化とともに、①世帯構造の変化や様々な生活状況により、健全な食生活を実践することが困難
- ・地域の伝統的な食文化等、国民の②食文化に関する意識が希薄化し、消滅が危惧される
- ・今後も平均寿命が延びることが予測される一方、③栄養の偏りや朝食の欠食などの食習慣の乱れが見られる。④これらに起因する肥満、生活習慣病、若い女性のやせ、高齢者の低栄養傾向などの健康面での問題も指摘されている。
- ・⑤情報の氾濫により、受け手である国民が食に関する正しい情報を適切に選別し活用することが困難な状況も見受けられる
- ・⑥食料を海外に大きく依存しており、食料自給率及び食料自給力の維持向上が急務
- ・⑦飢餓や栄養不足で苦しむ人々がいるなか、我が国は大量の食品廃棄物を発生させ、環境への大きな負荷を生じさせている。

○かごしまの“食”交流推進計画【第3次】（鹿児島県）

- ・①核家族化の進展や地域社会の弱体化などにより、②食に対する意識が希薄になるとともに、私たちの食生活においては、③栄養の偏り、朝食の欠食に代表されるような食習慣の乱れ、④これらに起因する肥満や生活習慣病、過度の痩身や低栄養等の問題も指摘されています。
- ・⑤食品の安全性の確保と「食」に関する正しい知識の習得が求められる
- ・⑥県産農林水産物への期待が高まっている

【共通する課題】

- ①ライフスタイル等の多様化、世帯構造の変化
- ②食文化、食に対する意識の希薄化
- ③食習慣の乱れ（栄養の偏り、朝食の欠食）
- ④肥満、生活習慣病、痩身・低栄養
- ⑤食に関する正しい情報
- ⑥地産地消
- ⑦食品ロス